



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

7. 10月下旬に大粒で高糖度の「シャインマスカット」を生産するための樹相の目安

[要約]

簡易被覆栽培で10月下旬に大粒で高糖度の「シャインマスカット」の果実を生産するためには、新梢当たりの葉面積が5,000cm²以上、9月下旬の葉色値が45以上の樹が望ましい。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話086-955-0276

[分類] 情報

[背景・ねらい]

岡山県産「シャインマスカット」の市場への出荷期間は7月から10月上旬が主で、それ以降は他県産の冷蔵果実が流通している。10月下旬に高品質な果実を生産することで、他県産の冷蔵果実との差別化が可能である。加えて、秋冬期の加温によって、収穫期間のさらなる延長も考えられる。そこで、簡易被覆栽培の樹で10月下旬に大粒で高糖度の果実を生産するのに適した樹相を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 新梢当たり葉面積が大きい樹ほど10月下旬の果粒重が大きく、新梢当たり葉面積が5,000cm²未満の樹では果粒が小さい傾向にある（図1）。
2. 9月下旬の葉色値が高い樹ほど10月下旬の糖度が高い傾向であり、葉色値が45未満の樹では糖度が低い傾向にある（図2）。
3. 新梢当たり葉面積が5,000cm²未満、かつ9月下旬に5節本葉の葉色値が45未満の樹は、8月下旬以降に糖度が上昇せず、10月下旬の糖度が低い（図3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は、所内の簡易被覆栽培で10a当たりの新梢本数を約4,000本、着房数を約3,000房に調整して実施している。また、着房節から先6節で摘心し、副梢は着房節周辺は2節、それより先は1節で摘心している。
2. 新梢葉面積当たり葉面積が過度に大きく棚上が過繁茂の樹では、糖度上昇を妨げる可能性があるため、止葉を摘葉するなど棚下の照度の確保に努める。
3. 糖度上昇は生育期の気象の影響を受けやすいため、果粒軟化期以降の日照が少ない年には強めの樹勢でも糖度が上昇しない場合がある。
4. 新梢当たり葉面積が5,000cm²未満、かつ9月下旬に5節本葉の葉色値が45未満の樹は、10月下旬まで出荷する栽培には適さないと考えられる。
5. 高温による品質低下を避けるため、果粒軟化直後にトンネル被覆を除去するのが望ましい。



[具体的データ]

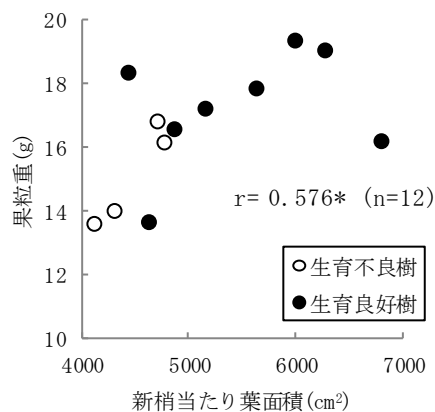


図 1 新梢当たり葉面積と10月下旬の果粒重の関係
(2015～2016年)

生育不良樹：新梢当たり葉面積が5,000cm²未満で9月下旬の葉色が45未満の樹 (n=4)
生育良好樹：生育不良樹以外の樹 (n=8)
 図中の*は5%水準で相関に有意性あり

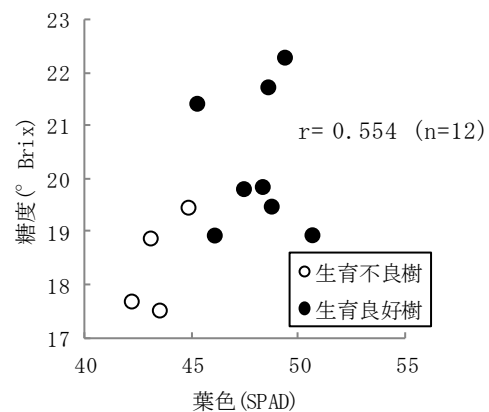


図 2 9月下旬の5節本葉の葉色と10月下旬の糖度の関係
(2015～2016年)

生育不良樹：新梢当たり葉面積が5,000cm²未満で9月下旬の葉色が45未満の樹 (n=4)
生育良好樹：生育不良樹以外の樹 (n=8)

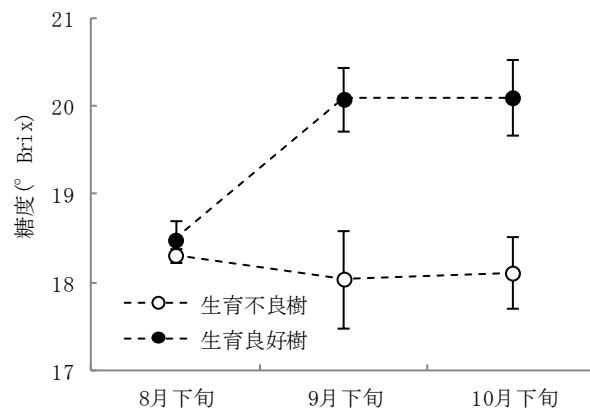


図 3 樹相の違いが糖度の推移に及ぼす影響 (2015～2016年)

生育不良樹：新梢当たり葉面積が5,000cm²未満で9月下旬の葉色が45未満の樹 (n=4)
生育良好樹：生育不良樹以外の樹 (n=8)
 図中のバーはS. E.

[その他]

研究課題名：「シャインマスカット」の秋冬期出荷技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2015～2017年度

研究担当者：平井一史、安井淑彦、中島 譲